

エ<事例名>

--

ア<事例の概要>

- ・全日制専門学科に通う高校1年生男子A。家族構成は父、母、A、妹（小5）の4人。
- ・夏休み明けの9月から、Aは頭痛や腹痛を訴え、保健室を頻繁に訪れるようになった。
- ・Aは、保健室で1時間休養をとってもまだ体調が悪いと訴えるようになっていった。養護教諭が、早退することを提案すると、Aは帰宅することを拒否し、辛そうにゆっくり歩いて教室へ戻って行った。その後、教室ではクラスメートと笑って話す姿が見られた。別の日、保健室のベッドで1時間の休養後、Aが布団に潜ってどうしても起き上がらなかったため、もう1時間休養させたところ、次からも、あたりまえのように2時間休養するようになった。
- ・朝や帰りに担任が教室へ入ると、Aが机の上に伏せていることが何度かあった。初めの頃は、声をかけると「大丈夫です」と答えていたが、日に日に荒い呼吸をして「胸が苦しい」と訴えるようになった。
- ・かかりつけの内科を受診したが、身体の疾患はないと言われた。
- ・2学期にはいり、A自らSCとの面談を希望し、定期的に面談を受けるようになった。
- ・担任との面談でAは、「高校入学してから、リストカットをしそうになったことが数回あった」と語り、「勉強しようとする、手が震えてできない」「両親から勉強のことをクドクド言われるため、ムカムカして気持ちが悪くなる」と訴えた。
- ・夏休みの課題をほとんど提出できなかったことは、担任が伝えるまで、母親は知らなかった。2学期の成績不振科目は数学と英語の2科目であった。
- ・母親の話では、当校はAにとって第一志望校であり、学力的には余裕がない状態で入学した。そのため母親はAの成績のことを非常に心配していた。当校は、母親の母校でもある。
- ・母親は、父親について、「男性は強くあるべき、と考える人なので、Aへの心配事は相談できない」と話していた。また、母親自身も高校生のときにリストカットをしたことがある。
- ・担任は経験年数が浅い若手教員で、クラス内には他にも支援が必要な生徒が複数いる。

イ<事例を見立てる>

--

ウ<対応を考える>

- ① 「
・
・」
- ② 「
・
・」
- ③ 「
・
・」